

共同声明

2014年2月25日から26日のムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ首長国皇太子兼連邦軍副最高司令官（殿下）による日本への公賓としての訪問の機会に、日本国とアラブ首長国連邦は、二国間協力の着実な進展を歓迎し、今般の訪問を踏まえて以下の共同声明を発表した。

「安定と繁栄に向けた日本国とアラブ首長国連邦の包括的パートナーシップの強化に向けた具体的取組」

両国間の歴史的な友好関係と優れた戦略的パートナーシップに基づき、日本国とアラブ首長国連邦は、以下の指針を通じて、友好的な両国国民の共通の目標と利益を達成することを目的として、両首脳が有する指示や目標を反映し、政治、経済、文化の分野における包括的パートナーシップを一層強化する意思を表明した。

（政治分野での協力）

- 双方は、日本国政府とアラブ首長国連邦政府との間の協力のための合同委員会の作業の改善に関する覚書への署名を歓迎し、合同委員会を活用しながら両国間の幅広い課題に関する政策協調を促進する意図を表明した。

（安全保障分野での協力）

- ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ首長国皇太子兼連邦軍副最高司令官（殿下）は、国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の観点から、中東を含む世界の平和と安定にこれまで以上に積極的に寄与するという日本の決意を歓迎し、双方は、海上交通路の安全を含む海上安全保障、海賊対策、不拡散、テロ対策、災害救援等の共通の目標に向かって協働していくことを決定した。

（防衛協力）

- 双方は、相互の更なる防衛協力の重要性を認識し、防衛当局高官の相互訪問を歓迎した。

（経済分野での協力）

- 双方は、石油の供給、探査及び生産の分野における優れた協力や研究、開発、精製における協力を歓迎した。双方は、石油開発協力に関する日本国とアラブ首長国連邦との長期的なパートナーシップの重要性を強調し、石油開発における相互補完関係が、技術協力、研修事業、資金協力、精製における協力等の手段を通じて進展していることを歓迎した。こうした観点から、双方は、原油の共同備蓄の容量を100万キロリットルまで拡大することを決定した。また、双方は、2014年の相互投資協定の交渉開始並びに原子力の平和的利用における協力のための日本国政府とアラブ首長国連邦政府との間の

協定及び所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国とアラブ首長国連邦との間の条約の締結に向けた各々の国内手続の着実な進展を歓迎した。双方は、原子力の平和的利用の分野、すなわち、人的能力の構築、東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故から学んだ教訓に基づく安全性の向上及び緊急事態対応等の分野における協力の促進を目的とする、日本国経済産業省とアラブ首長国連邦外務省との間の協力覚書の署名を歓迎した。双方は、また、JCCME とアブダビ商工会議所との間の協力覚書、JCCME とアブダビ品質規格評議会との間の了解覚書、国際協力銀行(JBIC) とアブダビ・フューチャー・エナジー・カンパニーPJSC (マスダル) の環境事業のための協力に係る了解覚書の署名及び日本貿易保険による新たな保険引受枠の設定を歓迎し、金融部門での相互支援の重要性を認識し、日本の経済政策や投資機会を説明するためのアブダビへのミッションを歓迎した。また、双方は、ハリーファ基金と中小企業基盤整備機構との間の現行の協力促進に関する新たな了解覚書の署名を歓迎した。

(航空分野での協力)

- 双方は、航空業務に関する日本国とアラブ首長国連邦との間の協定の新たな付表に関する交換公文を歓迎し、2013年6月以降、エミレーツ航空がドバイと東京国際空港(羽田)の間の直行便を開始したことを想起し、それが友好的な両国民の交流に更なる貢献をすることへの期待を表明した。

(領事分野での協力)

- アラブ首長国連邦は、昨年10月以降、商業、観光、保養目的で90日以内の日本への滞在を行うアラブ首長国連邦の国民に対して、日本国政府が3年間の数次査証の発給を開始したことを歓迎した。アラブ首長国連邦の要請に基づき、日本国は、数次査証発給の実施状況も考慮しつつ、アラブ首長国連邦の一般旅券所持者の査証免除の是非につき検討することを決定した。

(食料品輸入)

- 双方は、2011年3月の東日本大震災後に課された日本食の輸入に対する規制を緩和及び解除するために議論を継続する意思を表明した。

(教育及び科学協力)

- 双方は、両国民の関心を満たすような文化及び教育分野の協力に対する期待を表明し、日本国政府がアブダビ教育評議会内に事務所を開設した事実と協力の具体的な進展を歓迎した。双方は、また、共同研究枠組みの設立に関する東京大学、アブダビ石油大学との間の覚書を歓迎し、そうした学術協力の一層の深化への期待を表明した。安倍総理は、若者や学生による交流を強化するために、アラブ首長国連邦の小学校から高校の児童生徒を日本に招待するとともに、柔道を含むスポーツ協力を推進する意思を表明した。

(医療分野での協力)

- 双方は、医療分野での協力の重要性を確認し、安倍総理は、2014年末までに日本の高度医療機関へのアラブ首長国連邦の患者の受入れを開始し、同国の患者のための専用窓口の立ち上げを行うと述べた。ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ首長国皇太子兼連邦軍副最高司令官（殿下）は、これを歓迎し、そのための自国の国内手続を加速することへの期待を表明した。

(環境分野での協力)

- 双方は、両国間における専門知識の交換の重要性を確認し、廃棄物管理、水産養殖及び漁業分野における技術支援を議論する目的で、アブダビやドバイへの国際協力機構(JICA)による専門家派遣を歓迎した。

(人道及び開発分野での協力)

- 双方は、人道援助及び国際開発分野での協力と理解の促進のための日本国外務省とアラブ首長国連邦国際協力開発省との間の協力覚書の署名を歓迎した。

(スポーツ分野での協力)

- 双方は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて、安倍総理が表明した「Sport for Tomorrow」構想を通じ、アラブ首長国連邦とともにスポーツ分野の発展に取り組むことを確認した。